

サツキマス・アマゴ（サケ目サケ科）



庄内川水系で捕獲されたサツキマス



庄内川水系で捕獲されたアマゴ

■見分け方

- サツキマスとアマゴは同種であるが、河川から海に降りて、再び川に戻るものをサツキマス（降海型）、河川に残るものをアマゴ（河川残留型または陸封型）と呼ぶ。
- サツキマス・アマゴともに、背ビレに後方に脂ビレがある。
- サツキマス・アマゴともに体に朱色の点がある。近縁種のサクラマス・ヤマメにはない。
- アマゴは体に 7～11 個の暗青緑色の斑紋（パーマーク）がある。サツキマスはスモルト化（銀毛化）にともないパーマークは目立たなくなる。
- サツキマスは体長 30～50 cm、アマゴは体長 20～30 cmまで大きくなる。

■見られる場所と時間帯（時期）

- サツキマスは 4～5 月に海から河川を遡上し、10～11 月に河川上流域で産卵する。
- アマゴは年間を通じて 20℃以下の河川上流域（渓流域）に生息する。
- 名古屋市内では庄内川水系（西区、守山区）でサツキマス・アマゴが確認されている。

■その他

- 堰やダムなどの河川横断構造物により、川と海を回遊するサツキマスの生息環境が分断され、生息数が減少している。
- 愛知県の漁業調整規則により、全長 15cm 以下のサツキマス・アマゴの捕獲は禁止されている。また、禁漁期（10月1日～1月31日）が設定されている。
- 釣り、夕毛網、投網以外の漁具・漁法で調査採捕する場合は、愛知県の特別採捕許可が必要である。

（写真提供）矢田・庄内川をきれいにする会

ニホンウナギ（ウナギ目ウナギ科）



■見分け方

- 体は円筒形で細長い。
- 背側は青灰～褐色、腹側は白～黄色味を帯びている。
- よく似た種類のオオウナギは、体にまだら状の斑紋がある。

■見られる場所と時間帯

- 主に河川や内湾などで見られるが、水域の連続性が保たれているところでは、用水路、ため池、河川上流域でも見られる。
- 夜間にエサを求めて活動する。日中は物影に隠れている。

■その他

- シラスウナギ、クロコウナギ、黄ウナギ、銀ウナギなど成長段階ごとの呼び名がある。
- 近年、ニホンウナギの産卵場所は、マリアナ諸島西方海域の周辺にあることが発見されている。
- 海から河口域にたどり着いたシラスウナギは、5～6月になり水温が上昇するとクロコウナギ（鉛筆ほどの大きさ）になって本格的に上流をめざし遡上する。この時、堰、ダム、水閘門などの河川横断構造物があるとクロコウナギの移動が阻害され、生息数が減少する要因となる。
- これまでに堰やダムに設置された魚道は、アユなどが主な対象であり、ウナギ（特にクロコウナギ）が遡上できる魚道は少ない。
- 愛知県の漁業調整規則により全長 20cm 以下のウナギの採捕は禁止されている。
- 釣り、タモ網、投網以外の漁具・漁法で調査採捕する場合は、愛知県の特別採捕許可が必要である。

（写真提供）矢田・庄内川をきれいにする会

アユ（サケ目アユ科）



■見分け方

- 背側はオリーブ色、腹側は銀白色をしている。
- 背ビレの後方に脂ビレがある。
- 背ビレは黒色、脂ビレの先端はオレンジ色をしている。
- 胸ビレの後方に長円形の黄色の斑点が見られる。
- 産卵が近づくと体が全体的に黒ずみ、体の表面はザラザラになる。

■見られる場所と時間帯（時期）

河川と海を回遊するアユは時期によって見られる場所が異なる。

3～5月：海から川を遡上する稚アユ（全長5～10cm）が河口から中流域で見られる。

5～9月：全長15～30cmまで成長したアユが河川上・中流域で見られる。

10～12月：河川中・下流域の砂レキ底の瀬で産卵するアユ（サビアユ）が見られる。

11～4月：一生の約半分は海で生活している。

■その他

- 堰やダムなどの河川横断構造物がアユの遡上を阻害し、生息数が減少する主要な要因となっている。また、堰やダムに魚道があっても、管理の不備や老朽化で遡上不可能な魚道が各地で見られる。
- 愛知県の漁業調整規則により、禁漁期（1月1日～5月10日）が設定されている。
- 釣り、タモ網、投網以外の漁具・漁法で調査採捕する場合は、愛知県の特別採捕許可が必要である。

（写真提供）矢田・庄内川をきれいにする会